



## 黙示録 7 章 15 節

それゆえ、彼らは神の御座の前にあって、昼も夜もその神殿で神に仕えている。  
御座に着いておられる方も、彼らの上に幕屋を張られる。

彼らは艱難時代の殉教者たちで、今 天にいるんですね。何をしているのでしょうか。  
神の御座の前にあって、昼も夜もその神殿で神に仕えている。  
この神殿は、地上のどこかにある神殿ではありません。  
この時 エルサレムには神殿が建っているでしょうが、それではなく天国の神殿です。

旧約聖書の中に神殿の設計図面が描けるような詳細な記録が載っていて、ユダヤ人たちはそれに基づいて神殿を建てました。しかし地上に建てた神殿は、天国の神殿をイメージするための視覚教材でしかなかったのです。本物の神殿は天国にある。その写しと影・コピーが地上の神殿だと言っているのですね。

神殿には一番神聖な場所がありました。最も奥の間に位置している至聖所（しせいじょ）です。  
この至聖所を神の御座と言います。

彼らは神の御座の前にあって、昼も夜もその神殿で神に仕えている。

殉教者たちは天国の神殿の至聖所に入出入りしている。つまり、神様の最もそば近くにいることができる。神様を目前に仰ぐような所で仕えている。素晴らしい特権だと思います。

神の御座の前で何をしているのか。昼も夜もその神殿で神に仕えている。神殿で神の仕事をしている。

「天国でも仕事あるん？ この地上で散々働いてこき使われて、もう疲れてますねん。天国でもまだ仕事残ってるんですか？」ガッカリする方がいるかもしれませんが、それはね、仕事で酷い目に遭われた方々ではないかと思えます。

全ての人が仕事で辛い目・酷い目に遭ったのではなく、世の中には、仕事が楽しくて仕方ない、喜んでいた人たちもいないわけではないのです。どんな人たちが仕事を楽しんでいたのでしょうか。得意なことや好きなことを仕事に生かし、発揮できる人は仕事が楽しかったと思えますよ。

ただ、好きなことを仕事にしたからといって、それがそのまま楽しくなるとは限りません。

イチロー選手はインタビューで、「プロになってから野球が楽しいと思ったことは 1 回もない。プロだから責任があるから」と答えています。

今年引退した体操の内村航平（うちむら こうへい）選手は、「今まで、オリンピックでも世界選手権でもたくさんの金メダルをもらったけど、一番嬉しかったのは小学 5 年生の時に蹴上がりができたこと。あの時の喜びと比べたら、オリンピックの金メダルは比較にならない。」

オリンピックにはプレッシャーがあったんです。純粋に無心に競技そのものを喜べたのは子供の時。責任を負わなかった時なんですね。

とにかく、好きなこと・得意なことを仕事の中に持っている人は喜びを持ち得ると思いますが、実は仕事においては、もっと本質的なことがありますね。自分が一番大切だと考えていることの実現に繋がる仕事をしている。それが最も本質的なことなんです。

「こうなったら最高にいいなあ」という理想に近づくための仕事なら、ある場合は遅々として、ある場合は人に評価されなかったとしても、十分に喜びが与えられるものになり得るのです。

私はこの YouTube 動画配信が非常に楽しい。非常な喜びがあります。私が一番理想と考えていること、こうなって欲しいと思っていることが実現して行くための、手段の一つだと考えているからです。

私のビジョン・願い・人生の目的は、第一にクリスチャンが元気になることです。日本中のクリスチャンが元気になること。第二に、日本中の人々がイエス・キリストと出会って神の子になること。第三は、そういう人たちがどんどん増えることで、日本自身が神に喜ばれる国になること。そして、神に用いられる国家になること。これが、地上における私の置土産だと考えています。

そのために、この動画チャンネルがほんのちょびっとでも用いられたらいいなあと思って開始しました。これが私にとって理想で大事なものは、神がそのように願っておられるのではないかと祈りの中で教えられたからなんです。

明治大学の教授で文学博士、テレビにもよく出演されている齋藤孝（さいとう たかし/1960-）さんが、仕事に関して興味深いことを書いていました。「いい仕事をしている人とは、やりたいことをやっている人ではなく、需要に応えることができる人だ。プロは皆、自己実現ではなく他者実現で仕事をしている。」

相手の必要を満たす人は「いい仕事する人だなあ」と感謝されますね。そして、その仕事人をみんなが頼りにするようになります。人から必要とされると生き甲斐を感じるようになり、仕事が楽しくなっていく。非常にプラスのサイクルが始まって行くんですね。人を満たすことによって自分自身が満たされるということです。

私の場合、他者実現の他者、その第一は神です。“神が「して欲しい」と願われることは究極に良いことだ”と信じています。“神が理想とされていることは絶対的に間違いのない理想なのだ”と考えています。そして、“神が究極的に願っていることは建設的なことに違いない”と確信しています。

それで、「神が私に期待していることをさせていたきたい」と祈っていた時に、日本中のクリスチャンが元気になり、日本中の人々がキリストと出会って感激し、燃えるクリスチャンとなり、日本中が燃える国となって神に喜ばれ、世界に素晴らしい祝福を発信する国になればいいなと考えるようになりました。

神様は人にビジョンを与えた時、その実現に必要なものも全て備えてくださるんですね。私も、今まで出来なかったことにチャレンジして少しずつ出来るようになると、「あっ、また神様が助けてくださっているんだ！」という思いになってワクワクするんです。それが最も理想的に、最もリアルに分かる世界、それが天国です。

### **黙示録 7:15 御座に着いておられる方も、彼らの上に幕屋を張られる。**

至聖所で仕える殉教者たちに対して、仕えられる神は**彼らの上に幕屋を張られる**。**幕屋**はテントです。中東の砂漠では遊牧民はテント住まい。移動式の簡単居住区ですね。そこに族長たちがいて、テントの中に逃げ込んだ人は、族長（テントの主人/オーナー）が絶対に守ってくれます。また客人は、テントの中に迎え入れられるとVIP扱い。最高の料理・最高のもてなし・最高の振る舞いをしていただくんですね。

幕屋を張る。これは、神が最高のもてなしをするということです。

人は神に仕え、神は人に最高のもてなしをされる。神と人との生きた躍動感のある交わり。これが天国の本質なんですね。素晴らしいと思います。私も早く行きたいと思います。

次回はいよいよ、7つ目の封印解除をご一緒に考えましょう。

よろしければチャンネル登録をお願いします。また このチャンネルでお目にかかりましょう。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。